

第2次飯塚市地域公共交通網形成計画における目標達成のための取組
(第8章「2 目標達成に向けた施策」より)

目標	施策 No.	施策名	施策の内容	令和2年度の取組内容	担当課
1 総合的かつ持続安定的な公共交通体系の構築	2	地域懇談会の開催	地域の実情やニーズに合った効率的な公共交通(既存路線の維持や地域運行型交通機関の導入)に関する懇談会を開催する。	市内7地区で、まちづくり協議会が事業主体となる買物支援ワゴンの試験的運行が継続されている。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で地域住民との協議の機会を設けることが困難であったが、令和4年度のコミュニティ交通体系再編に向けて、今後、各地区の実情に合った地域内輸送に係る交通機関のあり方について、地域の関係者と協議していく予定である。	地域公共交通対策課
	6	店舗送迎用シャトルバスと既存公共交通の効果的・効率的な運行の検討	市・交通事業者・施設(店舗)所有者の適切な役割分担のもと、より効果的・効率的な運行になるよう検討する。	店舗送迎用シャトルバスを運行しているイオン穂波店の関係者と、今後の事業展開や民間公共交通機関との共存等に関する意見交換の場を設けることについて調整中である。	地域公共交通対策課
2 移住・定住の促進と暮らしやすさを確保するための公共交通体系の構築	7	JR福北ゆたか線の段階的複線化の検討	移住・定住の促進及び通勤・通学の利便性向上の観点から、複線化の実現に向けて検討する。	例年、JR九州篠栗線・筑豊本線整備連絡協議会を通じて要望書を取りまとめ、九州旅客鉄道株式会社に提出しており、令和2年度においても複線化の実現に向けて継続して働きかけを実施する予定である。	地域公共交通対策課
	8	JR篠栗線と地下鉄空港線の接続検討	沿線自治体の活性化、交流人口の増加に伴う経済活性化のため、関係機関と連携し、JR篠栗線と福岡市営地下鉄空港線との接続の実現に向けて取り組む。	福岡県や福岡県議会との協議を継続している。また、糟屋郡において、福岡市営地下鉄空港線とJR長者原駅接続期成会の設立に向けて協議が進行しはじめたことに対応し、本市においても筑豊地域の関係自治体(飯塚市・直方市・桂川町・小竹町・鞍手町)との調整を進めている。	総合政策課
	9	八木山バイパス4車線化の検討	高速バスの確実な運行を確保し、移住・定住を促進するとともに筑豊地域全体の経済活性化を図るため、4車線化実現に向けて検討する。	平成31年3月の国土交通省における事業化決定を受け、4車線化に向けた工事が施工中である(篠栗ICから筑穂IC間は令和6年度、筑穂ICから穂波東IC間は令和11年度に開通予定)。引き続き筑豊横断道路建設促進期成会を通して、道路管理者(国・県)並びに国土交通省、財務省及び地元選出国會議員に対し、工事の早期完成に関する要望活動を実施した。	建設政策課
4 高齢者等交通弱者が安心して暮らせる公共交通体系の構築	12	まちづくり協議会を主体とした地域に根差したコミュニティ交通の導入	誰もが気軽に利用でき、外出(社会参加)促進につながる地域運行型交通システムを導入する。	令和2年10月現在で、鯉田、飯塚東、幸袋、穂波、筑穂、庄内、颯田の7地区において、まちづくり協議会による買物支援ワゴンを運行している。	まちづくり推進課
	13	JR駅のバリアフリー化推進	誰もが公共交通を利用しやすい環境を形成するため、駅のバリアフリー化を進める。	JR九州篠栗線・筑豊本線整備連絡協議会を通じて九州運輸局に要望していたJR新飯塚駅ホームの点字ブロック内方線改修について、国庫補助が採択されたことを受けて事業費を予算措置し、JR九州と工事施工の協定を締結した。当該改修工事は1月に着工予定であり、年度内に終了する見込である。	地域公共交通対策課
5 近隣自治体との連携による公共交通体系の検討	14	嘉麻市、桂川町との連携による公共交通体系の検討	嘉麻市、桂川町と連携し、広域的な移動を確保できる持続可能な交通体系の構築に向けた実施計画の策定を検討する。	「嘉飯圏域定住自立圏形成推進会議」の中に設けられた「地域公共交通部会」において、書面開催による会議等を通じて2市1町の公共交通担当職員間で意見交換するとともに、圏域内の乗換ポイント(交通結節点)となるJR桂川駅の改修工事の進捗状況等について情報共有を行った。	地域公共交通対策課
6 健幸都市づくりにつながる公共交通体系の構築	17	公共交通利用に対する支援	「公共交通の利用の仕方がわからない」という意見に対応するため、市民を対象とした説明会を開催する。	市報を通じて、感染防止対策を講じながらの公共交通機関の利用促進を広く市民に呼びかけた。また、飯塚東地区のネットワーク委員会に出席し、コミュニティ交通の利用方法等について説明した。	地域公共交通対策課

特集

桂川町の未来に向かって

筑豊の玄関口「桂川駅」が生まれかわります。

桂川町では、福岡市まで電車で約30分という桂川駅の利便性を活かしたまちづくりをどう進めるかが、重要な課題となっていました。

そこで、現在、町が進めているのが、桂川駅周辺の整備により都市機能の向上を図り、福岡都市圏への通勤圏としての定住環境の魅力を高めていくための取組みです。

具体的には、まず国道200号から桂川駅南側にアクセスできる道路（山崎・上深町線）の整備を進めてきました。そして、平成27年度に策定した桂川駅周辺地区都市再生整備計画（※注）に基づき、駅南側広場の整備や、駅の南北をつなぐ自由通路の整備が、本格的に始まろうとしています。

これにより、桂川駅の交通結節点としての機能を向上させ、駅利用者の安全性や利便性の確保と都市部への通勤圏としての魅力を高め、筑豊の玄関口にふさわしい、暮らしやすい「まち」を創出いたします。



【桂川駅周辺イメージパース】



ねえねえ未来ちゃん！見たことがない駅だけど、これはどこの駅のイメージ図なの？



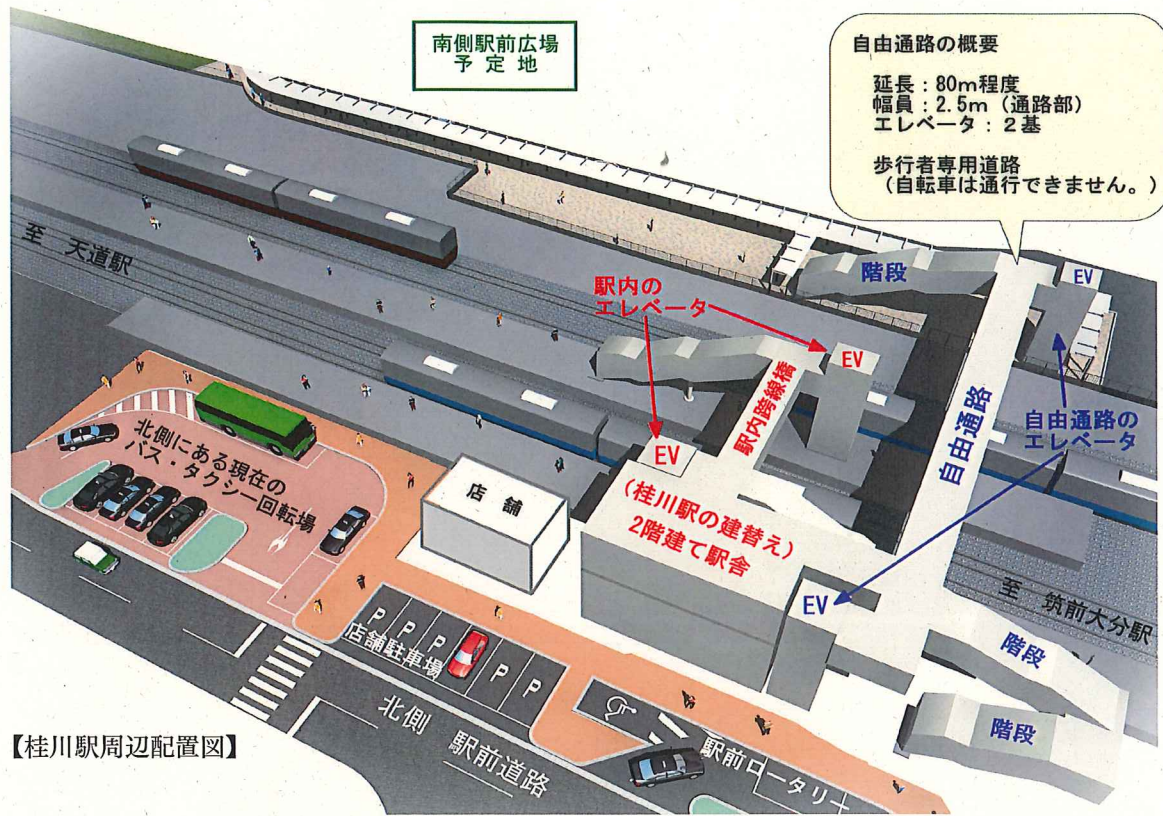
古代くん、これはね、今、桂川町が進めている桂川駅周辺の整備事業で作られる施設の完成イメージ図なの。なんと、駅の南北をつないで、改札口とも直結する自由通路が新しくできるのよ。しかもエレベーターも設置されてバリアフリーになるから、とても利用しやすくなるの。



へー！／／すごく便利になるんだね。ワクワクするね。未来ちゃん！これから桂川駅周辺がどんなふうになるのか、もっと詳しく教えてよ。

※桂川駅周辺地区都市再生整備計画

平成27年度から平成31年度までの5年間で、国の交付金を活用しながら、桂川駅周辺の機能充実と定住促進のまちづくりを進めるための計画です。



【桂川駅周辺配置図】

自由通路の概要

延長：80m程度
幅員：2.5m（通路部）
エレベータ：2基

歩行者専用道路
（自転車は通行できません。）

駅舎等の整備概要

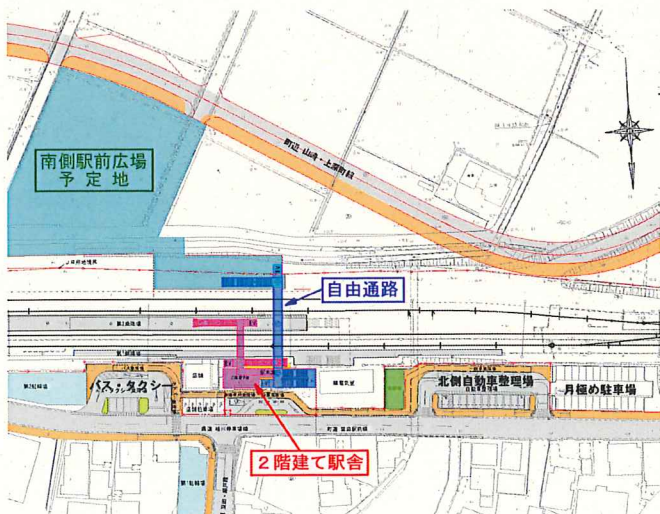
上記の桂川駅周辺配置図（鳥瞰図）は、今回の事業で新しく整備される自由通路等の位置関係を示したものです。

今回、駅の南北をつなぐ自由通路の設置に伴い、現在のJR桂川駅の駅舎を撤去する必要がありますが、このため、自由通路と接続する形で、改札口が2階にある桂川駅舎及びエレベーターを備えた駅内跨線橋が新たに整備される予定です。





自由通路の建設着工予定は、平成30年度下半期で、完成は約2年後を予定しています。現在、これらの工事に係る総事業費は約9億円を見込み、その約5割については国の交付金等の財政措置を活用し、町の負担を軽減することとしています。また、残りの事業費については、地方債を利用します。地方債償還期間は20年を予定しています。

現在、桂川駅周辺はJRの鉄道の南北で形成されています。駅の利用は北側からのみであり、駅前の道路や広場も幅員が狭小であるため、通勤・通学の送迎時にはアクセス集中による交通渋滞が発生するなどの課題を抱えていました。

これらの課題は、この自由通路等の整備により、大幅に解消されることが期待されます。



【桂川駅周辺整備の平面図】

 ふーむ。これだけ駅周辺が便利になれば人の流れも変わりそうだね。
 そうね。特に、駅の南北をつなぐ自由通路ができることで、町にいろんな変化が生まれるかもしれないわ。
 未来ちゃん！その自由通路の中を早く通ってみたいよ。
 うふふふ。それじゃ、特別に、自由通路のイメージ図を見せてあげるわね。



【自由通路内部イメージ図】

桂川駅の自由通路について

新しく設置する桂川駅の自由通路は、今まで踏切を介して往来していた駅の南北を繋ぎ、人の往来が容易になります。

南北両側にエレベーターが設置される自由通路は歩行者のみ通行可能です。長さは約80m、自由通路及び直結する駅舎は、お子様やお年寄り、荷物の多い旅行者にも優しいバリアフリー対応となります。また、自由通路内壁面に透明ガラスを採用することにより開放的で明るい雰囲気になる予定です。

桂川駅の自由通路は、駅利用者の利便性向上のみならず、新たな人の流れや駅周辺のにぎわい作りにつながる架け橋となることが期待されます。



【JR桂川駅 南側からのイメージ図】

これが南側から見た自由通路のイメージ図だよ。



エレベータの部分に王塚古墳の装飾壁画の文様があしらわれてるね。



そうなの。やっぱり桂川町のシンボル「王塚古墳」は必要だよな。



これなら町外から来た人にもインパクトがあるし、王塚古墳のアピールに繋がるね。自由通路完成が本当に楽しみだね。



暮らしやすい「まち」桂川へ向けて、町づくり事業が進展していくのが楽しみだね。



笑顔あふれる住みよい

「まち」づくりに向けて

筑豊の玄関口となるべく、平成21年に検討が始まり約7年の年月を経てようやく完成予想図を発表できるまでに至った桂川駅周辺整備計画。

福岡都市圏への通勤圏である桂川町の魅力を高めるため、駅南側広場の整備や、駅の南北をつなぐ自由通路の整備が、本格的に動きだそうとしています。

今回の駅周辺整備事業では、自由通路設置に伴い、駅北側に集中する交通量や人の流れを分散させるなどの課題が解消されることが期待されています。また、バリアフリーにも対応し、新たに設置される駅舎及びエレベーターにより、自由通路から直結して改札口を通ることもできます。

桂川町のシンボルである「王塚古墳」の要素も取り入れ、町外の方には魅力的で、町民の皆さまには親しみのもてる「JR桂川駅」が実現しようとしています。

桂川駅周辺整備により、住む人の笑顔があふれにぎわいのある住みよい「まち」づくりとなるよう事業を進めていきます。

ご意見、お気づきの点などありましたらお問合せください。

問合せ先／桂川町役場 建設事業課 事業係

☎ 65・3330